

視聴覚教育

NO. 1

発行日 12月31日

発行所 AVL
編集者 廣瀬 豊
編集委員会

岡崎の視聴覚教育の一年

視聴覚主任の総力で移転作業を終え、ライブラリーは、四月に表も新たに、市役所七階でスタートした。図書館時代より広いスペースがとれ、利用しやすい体制が整った。この新装ライブラリーを拠点とし、今年の視聴覚部の活動は始まった。

今年度は、研究大会こそ持たなかったが、昨年までの研究に基づき、個々の先生方の力量を高めることに主力を注いできた。その結果は各種論文や「視聴覚教育実践記録集」、「岡崎の視聴覚教育」第十集等にまとめられた。

また、学校視聴覚教育全国大会（札幌）、全国中学校放送教育特別研究会（熱海）放送教育全国大会（徳島）などに多くの先生方が出席し、全国的な動向を学んでこられたことも、今後の研究推

進に大いに役立つことと思う。

喜ばしいできごととして、美川中学校長 石川 博先生が「日本学校視聴覚教育連盟賞」、三島小学校、牧野伊佐夫先生が「日本放送教育協会々長賞」、自作委員会のハミリ映画「しめなわ」が優秀賞、など数々の受賞の栄に輝いたことがあげられる。

一方、夏季実技講習会をはじめ、各種講習会には、多数の先生方が参加され、意欲的な教材づくりがなされた。OHP講習会では、素人はなれた作品に感嘆の声も聞かれ、VTR講習会では、すぐ授業に利用できる教材（明治用水）が制作されたりした。

こうした意欲的な取り組みをしておられる先生方の授業実践の一部と、この月報で紹介してきたことも、今年の新しい試みであった。

施設 設備の面から見ると、今年度、文部省から「新教材基準」が示され、視聴覚機番は大巾に手直しされた。テレビ関係機器やOHPが学級一台以上となったほか、反応分析装置も学校一台盛り込まれた。すでに岡崎市ではTPO作成機を三年計画で全校設置が決まり、今年十七校に配布された。他の機器については、各校の視聴覚主任を中心にして大いに研究し、将来を見こした購入計画を下って整備をはかつて行きたいものである。

月刊『視聴覚教育』の発行を終えて

広報委員会

本年度は特に、よく読まれる月刊づくりを目的とし努力をしてきた。

昨号までのタイプ印刷をガリ版印刷にし、紙質もザラ紙から上質紙に変えたのもこのためである。ガリ切りについては、42号、48号を岡本孝幸先生（六南小）に、49号、51号を長坂正延先生（川中）に骨折っていただいた。48号からは題字とワクがカラー印刷され、体裁も整えられた。題字は図工、美術指導員古橋睦典先生にお願した。

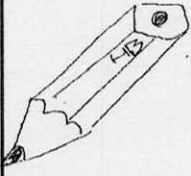
月刊報についての感想を聞いてみると、

- ▼ 字数が適当で短時間に読みやすい。
- ▼ カットなどが入って、大変親しみやすくなった。
- ▼ ライフラーレドよりも非常に参考にできる。

A 校 A・H

というように比較的好評だった。

今後ともよりよい月刊づくりをしたいと思っている。



待望の

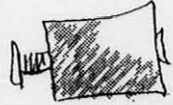
カセットカラーデンスケ購入!

このほどポータブルカラービデオカメラ（ベータマックス）を講入した。従来のオープン式カラーデンスケは付属品が多く、撮映に苦勞したが、カセット式のデンスケはカメラとVTRの2点でOK。しかもバッテリーは40分使用可能。カメラにもバッテリーをつければ80分）とすべての面を利用しやすくなった。4月から一般貸出しをする予定。せいぜい活用のほどを。

- ▶ 規格 ◀ カラーカメラ …… DXC 1710
- ポータブルレコーダー …… SLO 350

その他 カセットビデオコーダー（SLO 330）も併せて購入した。

たくさんの利用を待っている。



ライフラーレド だより

配達サービスは13日父まで

▼ 今年度の配達サービスは三月十三日（火）を最終として、回収は十六日

（月）までとする。